

会議記録

令和4年8月31日

- 会議名 丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会
第8回竹田・前山地域部会
- 日時 令和4年8月30日（火）19:30～21:00
- 場所 ライフピアいちじま
- 出席者 委員：青木修、余田義信、笹倉博、山邊敦、荻野幸広、藤田泰生、余田亜美、足立和宏、吉見典彦、余田淳子
[事務局]
教育総務課：船越係長、畑中
学校教育課：池内次長
[担当課]
子育て支援課：荒木課長、芦田係長

●内 容

1 校名の公募方法について

事務局より、校名の公募に関する募集要項、応募用紙及び選考要領の案を提示し、委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・個人的には子ども園を運営している竹山愛育会の園児が、竹山小学校に通うのが自然だと思うので、竹山小学校を推していた。
 - ・前の部会でも発言したが、校名を変えることは今後 PTA の規約を変えるときや校歌を考えるときに非常にネックになる。緞帳を変えたりする費用もかかる。そのようなことに予算を投じるなら熱中症対策でプールに屋根をつけることなどに使ってほしい。
 - ・元々は子どものために早く統合しようという話で進んでいたことが、校名を変えるか変えないかで引きずるのはよくないと思う。公募して校名を変えることに反対ではないが、個人的には必要がないと感じている。
- 前回の部会で校名については公募することで決定している。また、学校で児童を預かる立場からしても、みんなから愛される学校にしていきたいと考えており、そのためにも公募でいろいろな人の思いを知るために公募を実施することに賛成である。今は公募をどのように進めるかについてしっかり話し合うべきだと思う。

《公募方法について》

- ・他の地域の人にはあまり関係がないことなので、竹田・前山地域の方を対象に公募を行ってほしい。
 - ・年齢制限などは設けたほうがいいか。
- 山南地域統合中学校では年齢制限を設けておらず、児童や生徒からも応募いただいた。（事務局）
- ・全国公募は対象を広げすぎだと思う。
 - ・統合準備委員会の全体会でも承認を求める事項なので、2地域だけで勝手に決めるのはよくないという意見も出てくるかもしれない。
 - ・卒業生を応募対象に加えるか。
- 学校に対する思いを持っている方も多と思うので応募対象に加えるべきである。

【決定事項】

- ・募集期間 : 2ヶ月間程度
- ・応募対象者 : 市島町在住の方と市島地域の小中学校卒業生
- ・応募可能数 : 一人につき1点

《選考方法について》

- ・応募数を開示すると多くの票を獲得した校名に決まってしまうのが明らかなので選考会を行う意味がなくなるのではないかと。また、竹山小学校や竹田小学校など、現段階で応募数が多い校名がある程度予想できてしまう。
- ・現状の竹田小学校という校名でいいと思っている人は積極的には応募しないことが予想されるので、応募数を開示してもそれが必ずしも市島地域の総意ということにはならないのではないかと。
- ・公募を行う元々の目的が部会員だけでなく広く意見を聞くことだったので、応募数を開示したほうが判断材料は増えてよいのではないかと。

【決定事項】

選考要領や選考の際に配慮すべき事項については継続協議とする。

2 統合後のアフタースクールの在り方について

子育て支援課が行ったアフター利用者との意見交換会の結果や今後もアンケートなどで意見収集を行うことを報告し、委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・市は1校区につき1アフタースクールという方針を持っているので、現実的には竹田アフタースクールに通うことしか考えられないため、アンケートの内容は統合後のアフターの場所はどちらがいいか聞く形ではなく、竹田アフターになることを前提に、その場合に配慮してほしいことは何かを聞くような内容がいいのではないかと
- ・前山地域の保護者に竹田アフタースクールの施設を見学してもらうなどの配慮が必要である。
- ・アンケートは現在のアフタースクール利用者だけでなく、こども園利用者にも実施してほしい。
- ・アンケートを実施した場合、不満がある人の意見が集まることが多い側面も考えるべきで、内容はしっかり考える必要がある。
- ・一方的に決めようとは考えておらず、アンケートの結果や学校との距離や送迎の課題、学校との連携のとりやすさなどを考慮し、児童を安心して預けてもらえるように総合的に判断していきたいと考えている。(子育て支援課)

- ・次回以降日程 ○令和4年月9月21日(水)19時30分～
竹田小学校 体育館